

当初予算の全体像

- ◆ **一般会計の予算額** 419億20百万円 <+8億80百万円、+2.1%>
 扶助費など社会保障関係費の増加、都市計画道路の整備など普通建設事業費の増加等により予算規模は増加
- ◆ **全会計の予算額** 1,386億63百万円 <+158億80百万円、+12.9%>
 (特別会計・企業会計を含む)
 競艇事業会計において、SG競走「第30回グランプリ(賞金王決定戦)」を主催するため、予算規模が拡大
- ◆ **一般会計の主な歳入の状況**
 - ・ **市税収入** 226億5百万円 <+1億96百万円、+0.9%>
 人口増や企業の業績回復、税制改正に伴う市民税の増収などにより、市税収入全体で約1億96百万円の増加
 - ・ **国庫支出金** 76億21百万円 <+16億42百万円、+27.5%>
 子ども・子育て支援新制度移行に伴う認可保育所等の増加、都市計画道路「萱野東西線」「芝如意谷線」の整備や箕面駅前駐車場・駐輪場の建替などにより、国庫支出金は約16億42百万円の増加
 - ・ **市債** 26億8百万円 <+10億96百万円、+72.5%>
 都市計画道路「萱野東西線」「芝如意谷線」の整備、箕面駅前駐車場・駐輪場の建替などに伴う市債の増加
 - ・ **競艇事業会計繰入金** 6億円 <±0億円、±0.0%>
 収益向上策の強化などにより、前年度と同額の6億円の繰入金を見込む。
 約59百万円を北大阪急行線延伸の詳細設計に活用、約4百万円を北大阪急行線延伸に係る市債の利子償還分に活用、約5億37百万円を『北大阪急行南北線延伸整備基金』へ積立
- ◆ **一般会計の主な歳出の状況**
 - ・ **扶助費** 102億73百万円 <+10億3百万円、+10.8%>
 子ども・子育て支援新制度移行に伴う認可保育所等の増加、児童数の増に伴う児童手当の増加など
 - ・ **普通建設事業費(施設整備工事など)** 42億26百万円 <+5億83百万円、+16.0%>
 都市計画道路「萱野東西線」「芝如意谷線」の整備や箕面駅前駐車場・駐輪場の建替など
 - ・ **積立金** 9億73百万円 <▲3億7百万円、▲24.0%>
 『北大阪急行南北線延伸整備基金』、『学校教育施設整備基金』への積立など

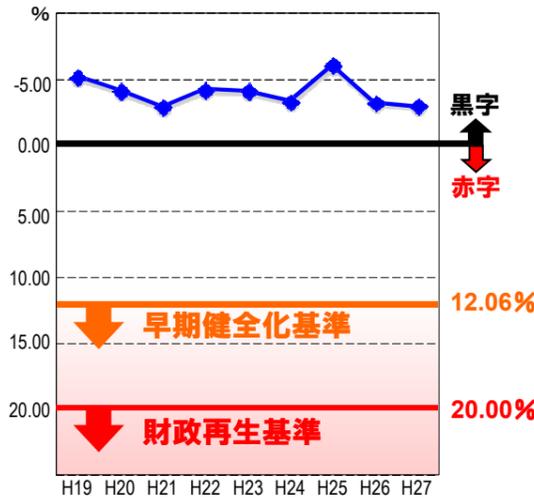
健全化判断比率の状況

平成26年度以前は決算(見込み)、平成27年度は当初予算後の数値による試算。いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準を超えた団体は、破たん一步手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード) 財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)

◆ 実質赤字比率

一般会計の赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

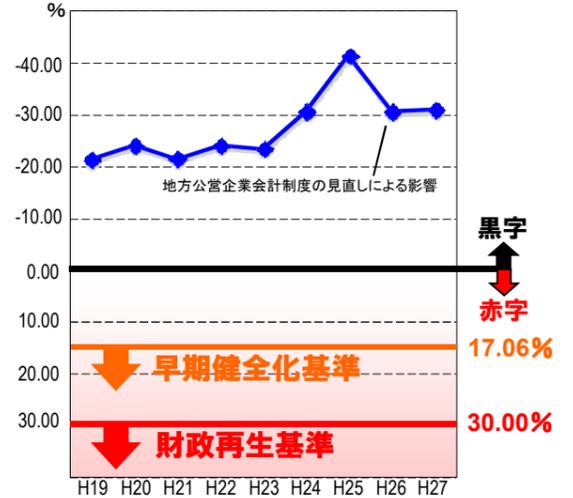
黒字
堅持



◆ 連結実質赤字比率

一般会計の他、すべての特別会計、企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

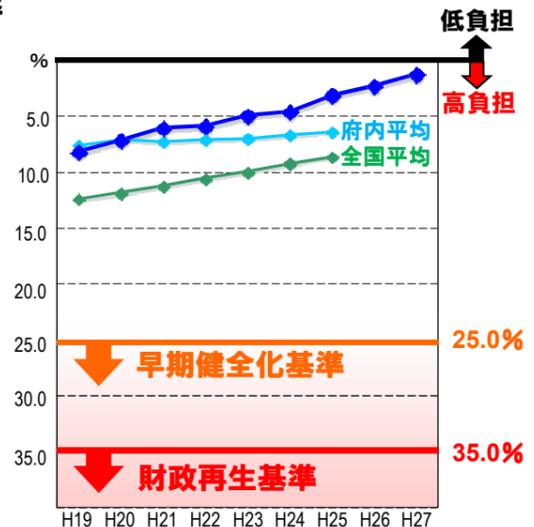
黒字
堅持



◆ 実質公債費比率

一般会計の市債の返済額などの大きさで、資金繰りの危険度を示す。

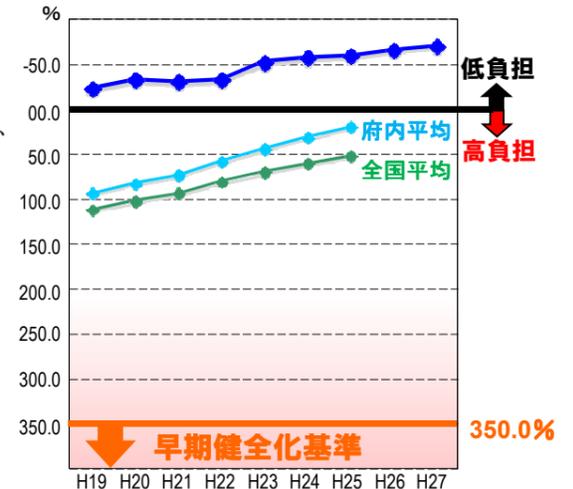
負担
軽減



◆ 将来負担比率

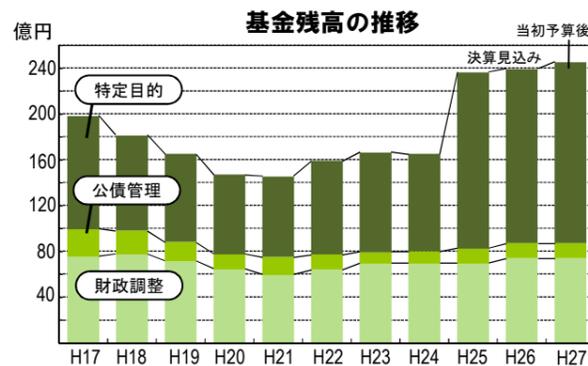
一般会計の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の程度で、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。

負担
軽減



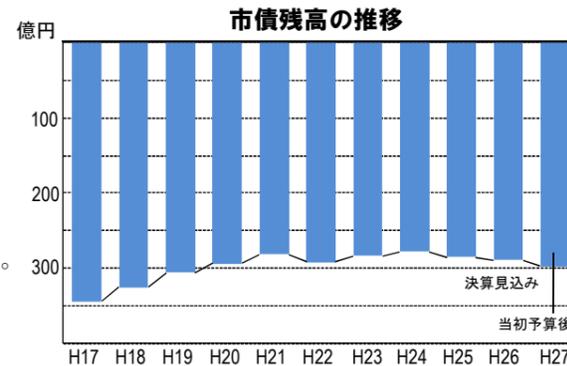
収支バランスの状況

◆ **基金残高 (普通会計ベース)** 245億65百万円 <+6億27百万円、+2.6%>



取り崩しを必要最小限度の3億46百万円にとどめる一方、『北大阪急行南北線延伸整備基金』、『学校教育施設整備基金』などへの積立を行った結果、基金残高は6億27百万円増加した。(昨年同様、財政調整基金の取り崩しはしない。)

◆ **市債残高 (普通会計ベース)** 297億44百万円 <+6億51百万円、+2.2%>



約19億57百万円返済する一方、施設整備事業債などを約26億8百万円発行した結果、市債残高は約6億51百万円増加した。なお、臨時財政対策債は限度額まで全額発行せず、13億円の発行に抑えている。

◆ **経常収支比率** 94.5% <▲0.1ポイント>

人件費(退職手当)や社会保障関係費が増加したものの、市債の一部償還終了や病院事業会計への赤字補てんを廃止したことにより、昨年度から0.1ポイント改善。今回で5年連続の改善、7年連続の経常黒字(経常収支比率100%以下)の達成となる。

